

○議長（福田正男議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質問を続けます。

大池真由美さん。

〔4番 大池真由美さん登壇〕

○4番（大池真由美さん） おはようございます。

大池です。よろしくお願いします。

私は、障害者の通所施設であります就労継続支援事業B型の事業所に事務員として働いております。障害福祉サービス事業所は社会福祉法人や親の会がつくってきたなどさまざまな流れがあるために、事業所ごとに特徴があります。その特徴を生かしながら、一定水準のサービスの品質を確保するための現状についてお伺いしたいと思います。

それでは、通告に従いまして質問をいたします。

1つ目のテーマは、障害者の支援体制についてです。

質問(1)市内にはさまざまな障害福祉サービス事業所がありますが、その中でも日中の居場所は重要であると考えています。働く場である就労継続支援事業A型、就労継続支援事業B型、常時介護を行う生活介護事業、一般企業への就職希望者に対する訓練等を行う就労移行支援事業所などについて、島田市内のそれぞれの施設数と、島田市の設定するサービス量の計画値及びそれに対する島田市民の利用者数を教えてください。

質問(2)高齢者に対する支援は、ケアマネジャーが中心となり、その他の支援者と連携して介護サービス計画を作成しています。

障害者においては、障害者の日常生活を支えるための支援体制はどうなっていますか。また、サービス等利用計画作成の進捗状況について教えてください。

また、2つ目のテーマについて御質問いたします。観光資源や中山間地の地域おこしとしての在来作物の活用について質問いたします。

静岡県内でも200種類くらいの在来作物が確認

されていると聞いております。しかしながら、その作物は流通に乗らないために、農家の自家用に作られているだけで、人知れず失われており、地域の宝である遺伝資源が失われているのが現状です。そのため、以下2点について御質問いたします。

質問(1)島田市内の在来作物について、どのくらいあるか市は把握していらっしゃいますか。

質問(2)既に静岡市では中山間地に残る在来作物を地域おこしや観光に結びつける取り組みが始められていることから、この取り組みを参考として、島田市でも複数の部署が連携して取り組みを進めたらどうでしょうか。

以上、壇上での質問といたします。よろしくお願いいたします。

〔4番 大池真由美さん発言席へ移動〕

○議長（福田正男議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） では、大池さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。現在の市内の施設数は、雇用契約に基づく就労が可能な人を対象とした就労継続支援事業A型の施設が1カ所、非雇用の就労継続支援事業B型の施設が12カ所、生活介護事業の施設が8カ所、就労移行支援事業の施設が1カ所です。平成26年度に策定した島田市第4期障害福祉計画における平成28年度末の計画地と、それに対する利用者数は、就労継続支援事業A型利用者が計画値39人に対して33人、就労継続支援事業B型利用者が計画値221人に対して233人です。また、生活介護事業所利用者が計画値171人に対して158人、就労移行支援事業所利用者が計画値10人に対して13人となっております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。障害のある方に対する支援につきましては、まず障害のある方御本人及び支援者を含めたケア会議等により支援方法を確認した上で、一人

一人の心身の状況や障害福祉サービスの利用意向等を勘案しながら、相談支援専門員がサービス等利用計画を作成しております。そして、この計画に基づき障害福祉サービスごとに、その提供事業者が各利用者に適した個別支援計画を作成しております。また、この個別支援計画は一定の期間ごとに利用状況の検証等が実施され、必要に応じた見直しが行われております。サービス等利用計画作成の進捗状況といたしましては、障害福祉サービス利用者の約98%の方は、相談支援専門員による計画が作成され、残りの2%の方は市職員が作成した計画、または相談支援専門員等の助言によりサービス利用者御自身が作成した計画となっております。

次に、2の(1)の御質問についてお答えをいたします。平成27年に地域住民への聞き取り調査を行い、犬間地区のサトイモや笹間地区のニンニクなど6地区で8品目、14種の在来作物があることを把握しております。

次に、2の(2)の御質問についてお答えをいたします。静岡市中山間地域の在来作物を使用した取り組みとして「プロジェクトZ」や「オクシズ」といった取り組みがあることは把握しております。在来作物を地域おこしや観光振興につなげるためには、品質、数量、販売ルート等に大きな課題があります。地域の取り組みなどにより栽培方法が確立し、安定した品質、収穫量等が確保できるようになれば、地域特産の農産物として支援し、PRやブランド化を推進していくことは可能と考えております。今後、農林課、観光課等、複数部署が連携し、在来作物を使った地域おこしを研究してまいりたいと思っております。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしく願いをいたします。

○議長（福田正男議員） 大池さん。

○4番（大池真由美さん） 御答弁ありがとうございます。それでは、障害福祉サービス利用者一人一人の日常生活を支えるために、市は具体的には事業者に対してどのように支援しているか教えていただきたいです。事業者に対して支援をするというのは、直接支援を毎日しているのが事業者であるからであります。

○議長（福田正男議員） 横田川健康福祉部長。

○健康福祉部長（横田川雅敏） 具体的な事業者への支援についての御質問でございます。市のほうでは地域における障害福祉関係者による連携や支援体制に関する協議を行うために、島田市地域自立支援協議会という組織を設置しております。この協議会は、障害をお持ちの方、そして市内の相談支援や障害福祉サービスを提供する事業所の職員、地域福祉関係者、学識経験者等で組織をされておりまして、この協議会の下には地域課題ごとに7つの部会を設けておりまして、地域課題の解決に向けた検討を専門的に行っております。また、障害福祉サービスの事業従事者の資質向上を目的としました研修会なども開催をしております。そのほか、市内の障害者就労支援施設で作成された製品を販売するにじいろ市場、これは毎週水曜日に市役所の玄関前のロビーで実施をしておりますけれども、このにじいろ市場の開催に当たっての支援、そして島田市障害者福祉連絡会等の団体が主催するいろいろな事業への参加協力を行っております。あと障害福祉事業所や利用者への文化事業等に関する情報提供なども行っておりまして、さまざまな場面で支援をさせていただいております。

以上でございます。

○議長（福田正男議員） 大池さん。

○4番（大池真由美さん） ありがとうございます。今回、質問をさせていただきまして、障害者の日常生活を支えるための支援体制は、障害のある方と支援者がケア会議で支援方法を確認した上

で、相談支援員が作成したサービス等利用計画に基づいてチームで支援しているということがわかりました。そして、そのチームの一面を占める御利用者に最も近い立場の事業所に勤める者として感じていることは、事業所では毎日精一杯の支援をしています、近いがゆえに気がつかないこと、灯台もと暗しになるのではないかという危惧があることです。そのために、市はお一人お一人それぞれに合ったオーダーメイドの支援という本来の目的が達せられるよう、事業所を通じる形での支援に一層の工夫と取り組みをお願いしたいと思います。

次に、在来作物の利活用についてです。島田市内における在来作物の種類は、6地区で8品目、14品種であるとの御答弁をいただきました。島田市だけではなく大井川流域を含めれば、もっと多くの在来作物があると思いますので、それらを使った地域おこしや観光振興を推進していただきたいと思います。身近な例として、先ほど御答弁の中にもありました静岡大学の稲垣先生が中心となって進めるプロジェクトZというものがありますが、これはこの特徴は、市民活動を通して在来作物を世間に広め、在来作物の味を楽しむという取り組みであります。また、同じく稲垣先生との連携で焼津のまちづくりリーダーによって、絶えかかった3種類から4種類の作物が発見されたという事例もございます。また、このことを念頭に置かれまして調査研究をもう少し深くさせていただければというふうに思います。

また、いろいろなところからお茶が大変なのだ、お茶だけではやっていけないといったお話も聞くのですか、在来作物に限らず地域経済の根幹となる農業を元気にする取り組みも必要ではないかというふうに思っています。地域の農業が元気になって、それが土台となって農業の体験やグリーンツーリズムなどを通して地域を活性化し、市外から多くの観光客の皆さんが来るなど、観光振興に

よる地域活性化を進めていただければと思います。その際には、ぜひとも市民協働と市役所内の部署の連携を同時に進めていただければ、より力強いものとなるのではないかと思います。

お時間の関係もあり、提案という形でお話をさせていただきました。

以上です。

○議長（福田正男議員） 北川産業観光部長。

○産業観光部長（北川雅之） 御提案ありがとうございます。現在、市で進めています地方創生のテーマというものがあって、それは稼ぐということでございます。農業で稼ぐ、観光で稼ぐ仕組みづくりを進めているところでございます。そうしたところの中で在来作物、そうしたものはまさにここにしかないという貴重な観光資源というふうに考えております。どんな作物がどのくらいとれるのかというようなことを調べる必要もありますので、御提案にありましたように稲垣先生にこの地域を回っていただくというようなことも少し研究してみたいと思っております。

また、川根地区には農家民宿というものが3軒ほどございます。そうしたところでそうした在来作物を使って川根特有の料理が提供できないかと、そうしたことも少し研究してみたいというふうに考えております。御提案ありがとうございます。

○議長（福田正男議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 大池さん、御質問ありがとうございます。今、担当部長の北川からもお話がありました、農家民宿、3軒ほどございます。こうしたところでこの在来作物を使ったお料理を提供するというような、在来作物はまさにその量でありますとか、流通、どういうふうに流通に載せていくか、限られた量をとるところが大変難しいところでございますが、これを料理として提供するということであれば、そこに行かなければ食べられないということで付加価値もついてまいり

ます。こうした中で川根地域でありますとか、在来の作物がとれる地域で、ぜひその地域の方々が料理したものを出すような、そういった取り組みが出てくるといいのかというふうに感じております。

もう1点は、賑わい交流拠点というものを計画しておりますが、この中に農家レストランというものを開設する予定でございます。こちらは大井川流域で作られた農産物を、作り手である農家の女性たちが、まさに料理をして、目に見える形で、作った人も料理した人もという形で出している予定であります。こうしたところにこの地場産品、在来の作物が活用されればと願っているところであります。

○議長（福田正男議員） 大池さん。

○4番（大池真由美さん） 在来作物は遺伝資源というだけでなく、地元の文化とも非常に密接に結びついていますので、地域のつながりを守るといいう点でも大事にしていていただきたいというふうに思います。

本日は、どうもありがとうございました。

以上です。

○議長（福田正男議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） ありがとうございます。

もう1点だけ、せっかくですから、障害者に対する支援体制のところでお話をさせていただきます。今日は障害者の日常生活を支えるための制度的な支援についていろいろ御質問をいただきました。私どもはオーダーメイドのその支援、その工夫、取り組みを重ねていくことは当然のことではありますが、もう一つ大事なことは、心のバリアフリーだと思っております。制度がどんなに充実していこうとも、やはり障害のある方々がまちに出ていける。そしてまた、それをみんなで支えて受け入れていける島田市でありたいと思っておりますので、心のバリアフリーもあわせて発信をしまいたいと思っておりますのでございます。

ありがとうございました。

○議長（福田正男議員） 大池さん。

○4番（大池真由美さん） ありがとうございます。今日は丁寧な御答弁をいただきまして、感謝しております。